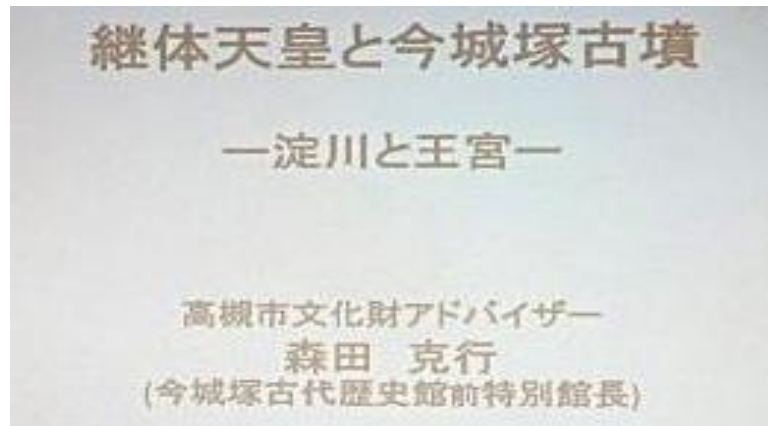


13期 北摂の歴史ロマンを愉しむ トピックス（5月下②）

第7回



日時 : 5月30日 午前10時～12時
場所 : 高槻教室(高槻センター街ビル内)
講師 : 森田克行氏
(高槻市文化財アドバイザー : 今城塚古代歴史館前特別館長)

講義内容 1. 三島と三島古墳群

(要旨抜粋) 三島は御島であり、美称(み)がつくのは倭政権の枢要地
また、王族墓の太田茶臼山や継体陵造営に見る重要地、
淀川中流域に500余の古墳が存在

2. 継体天皇陵の論議と今城塚古墳

「延喜式」では継体天皇陵は島上郡(今城塚が存在)にあるとしているが、
元禄時代の国学者が、島下郡にある太田茶臼山古墳を継体天皇陵の
候補とし、本居宣長が延喜式の島上は島下の写し間違いだろうとした。
宮内庁は太田茶臼山陵を継体天皇陵としているが、学術的には99.9%
今城塚古墳が継体天皇陵

3. 継体は傍系の王族で、琵琶湖の水運を牛耳る豪族の長

武烈天皇に後継がないので、大和政権は応神天皇の5世孫の継体に
即位を要請。507年、継体は樟葉宮で即位した。

4. 継体天皇の後妃たち

多彩な后妃は継体の勢力基盤を映し出している。

5. 継体天皇の故地、近江高島の古墳

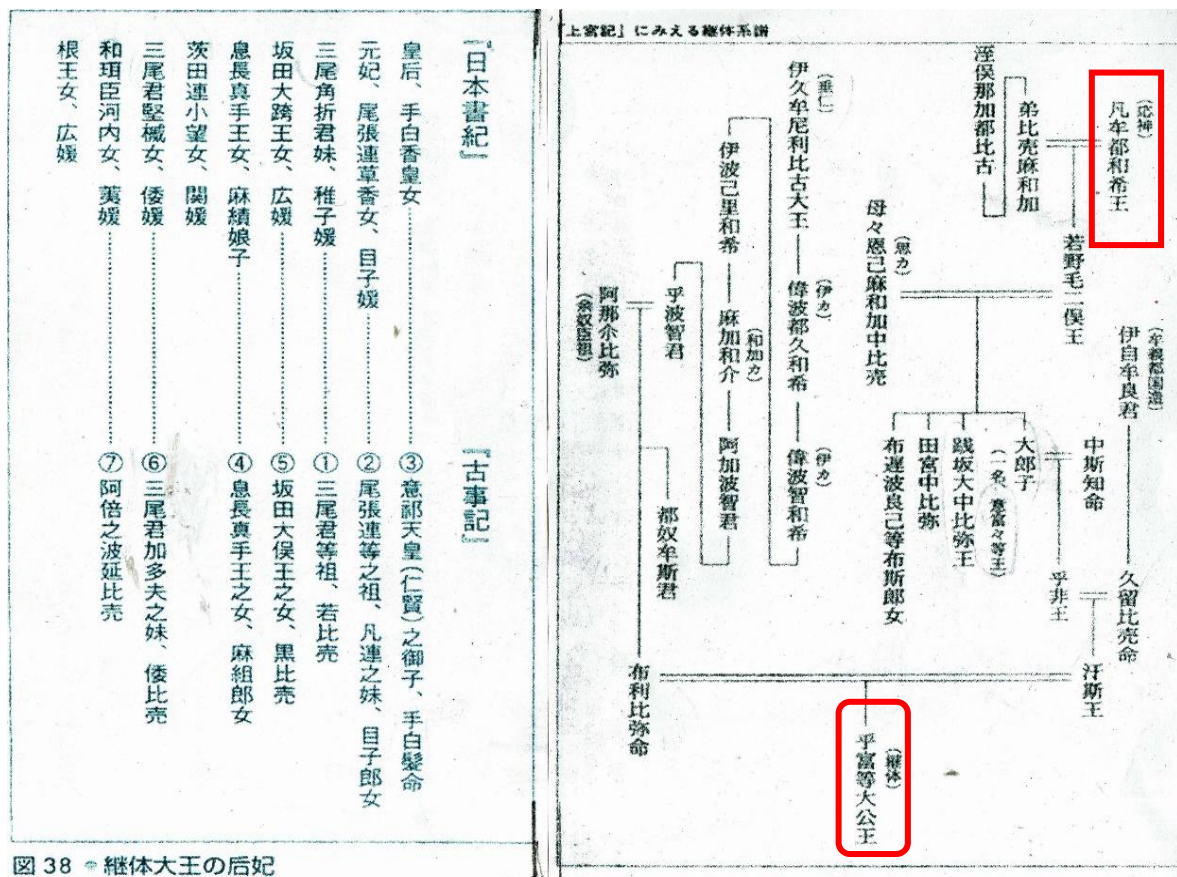
高島にある田中古墳群(約70基)は三尾氏の奥津城(墓所)、
内 田中王墓古墳は継体の父(彦主人王)の墓と推定。
鴨稻荷山古墳の被葬者は継体と同世代の有力者

6. 樟葉宮から磐余玉穂宮へ

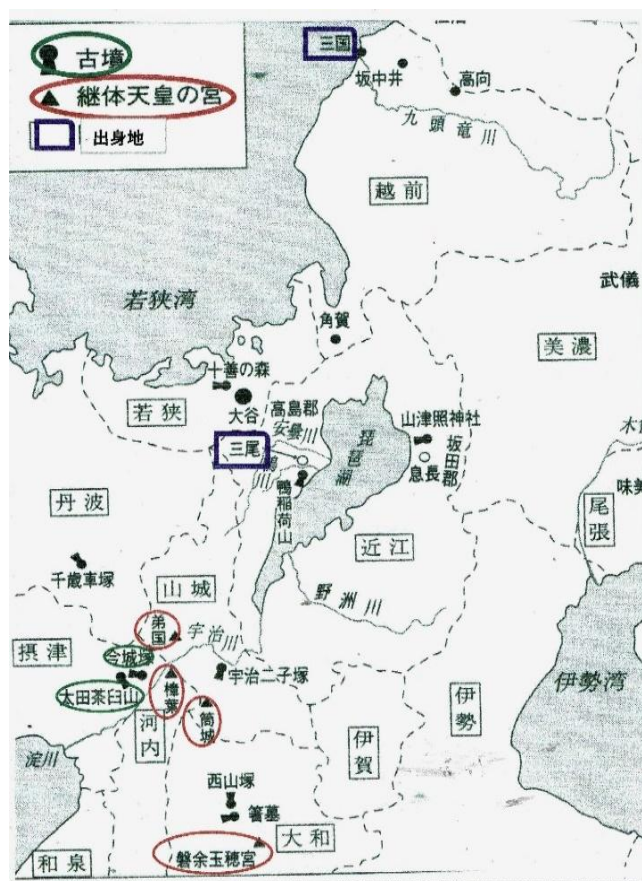
507年に樟葉宮で即位し、筒城宮、弟国宮を経て、526年に大和入りし、
大和磐余玉穂宮に遷宮した。

30年近くかかったのは、大和に反対勢力があって大和に都を造ることが
できなかったという説もあるが、この間、水運、陸運を整備するなど力を
蓄えていた。そのことから、宮の場所も一般に考えられている高台でなく、
川辺であったと考える。

継体天皇は大和入りの直後、大和政権が果たせなかった朝鮮半島への
入口を抑えていた筑紫の豪族磐井を滅ぼしている。



三尾高島鴨稻荷山古墳石棺



金銅製飾履 復元品

同上 副葬品の履



(講義スライドより)



(講義スライドより)



今城塚古墳で修羅曳きイベント 大阪湾に上陸した後、8月28日、継体陵と考えられる今城塚古墳で阿蘇産ピンク石の復元ひつぎが約1500人の人々によって修羅で運ばれた。(宇土市教育委員会提供)

講義は、時間的制約があって、主に継体天皇関連となり、古墳の説明としては、石組みの排水溝や伏見地震の影響など土木面にとどまって、副葬品や埴輪などについては、6月6日の現場での学習となった。

受験生の「今日のひとこと」(一部)

- 森田先生のお話は、いつも豊富な資料を提供して頂いて、それを読み込むことによって、史実を明らかにしていく手法が素晴らしい。
しかしながら、ある程度の漢文、古文の知識がないと判読がむづかしい。
- 現地探訪の前に、座学で情報を聞いていると、確認する意味でもとても勉強になります。6月6日の現地探訪が楽しみです。
- なぞ多き継体天皇について、多くを語っていただき、とても面白かったです。

班別活動をスタート

午後は班別に分かれて、今年度の班別活動をスタートしました。

班活動の計画

< 1 班 >	
テーマ	西国街道沿い（向日市、長岡京市）沿いの史跡、文化施設を訪問する
計画概要	1、向日市文化資料館、向日神社 2、長岡京神足ふれあい町家（旧石田家住宅） 神足商店街（歴史街道の街並み） 3、勝竜寺城公園
< 2 班 >	
テーマ	長岡京について
計画概要	・生い立ち・・・長岡京に都をおいたの？ ・なぜ短命の都だったのか？ ・どんな都だったのか？ ・現在残っているものはなあ～に （遺跡は？、石碑はある？） 各自調べた上で、後日検討会を実施する。
< 3 班 >	
テーマ	三好長慶と松永久秀との関連について
計画概要	5/30 しろあと歴史館 情報収集 6/27 各自の情報整理（中央図書館） 10/10 三好山散策 情報収集 10/31 交流祭準備
< 4 班 >	
テーマ	古代のふしぎ！
計画概要	古墳時代を中心とした 地元北摂の古代のふしぎを 独自の視点で理解する。 講義のテーマを掘り下げて “ふしぎ” を探る

早速、1班は向日市文化資料館と向日神社へ、3班はしろあと歴史館と高槻城公園に向かって、飛び出していきました。

2班と4班は教室に残って、計画の詳細を打ち合わせしました。

さて、どんなロマンを発見するか、来年3月の成果発表会が楽しみです。